

【城郭史部会】浜松における領国支配と城郭普請の調査研究

(令和 8 年 2 月 10 日城郭史部会資料より作成)

1. 趣旨

関ヶ原合戦を経て出雲国富田城へ入城した堀尾氏は、慶長 16 (1611) 年に松江城を築城し本拠とした。その後の富田城は支城として存続し、他にも三刀屋城、赤穴瀬戸山城、亀嵩城、三沢城が元和元 (1615) 年の「一国一城令」で破却されるまで支城として利用されたと考えられる。これら出雲国における本城・支城体制は『松江城研究』5 の特集「中国筋「本城・支城」を考える」で取り上げた。

また、出雲入国前の堀尾氏領国であった遠江国浜松においても浜松城を本城、二俣城を支城とした本支城体制による支配がなされており、「浜松城－二俣城」、「松江城－三刀屋城」は、堀尾吉晴と弟・宗光がそれぞれ支配していたという共通点もみられる。

そこで、浜松城、二俣城を中心に城郭・出土遺物、城下町等の現地調査を行うことで、堀尾氏による本支城体制の比較検討を行う。

2. 議事

・全体スケジュール

令和 8 年度 調査実施

全員で全体を概観した後、希望箇所に分かれて調査を予定。追加の調査が必要な場合は各自個別に実施。

令和 9 年度 原稿執筆・刊行

調査の結果は『松江城研究』8 (令和 9 年 3 月刊行予定) の特集として執筆いただく。

・調査内容/希望箇所

中井部会長：遠江国、出雲国での本城・支城における瓦使用の有無とその意図

二俣城以外に支城が存在するか

豊臣期 (天正 18 年以降) の東海エリア (堀尾、中村、山内氏) における本城・支城体制の共通点

乗岡委員：堀尾期の石垣、出土瓦

松尾委員：二俣城下町について、絵図及び山村亜希氏の復元図 (『二俣城跡・鳥羽山城跡・総合調査報告書』2017 年) をもとにした現地確認

・調査日程 令和 8 年 10 月以降

・調査参加者 令和 8 年度の城郭史部会等で調整